

議 事 要 旨

議 事 要 旨	
会 議 名	徳島県がん診療連携協議会
日 時	平成27年3月26日(木) 19:00～21:00
場 所	徳島大学病院大会議室 (中央診療棟5階)
出 席 者	福森会長、木村委員、八木委員、住友委員、漆川委員、喜多委員、本田委員、金山委員、寺嶋委員、鎌村委員、高山委員、島田委員、近藤委員、丹黒委員、秋田委員、木田委員、森氏(代理)、川崎氏(代理)、西村氏(代理)、東島氏(代理)、松本氏(代理)
欠席者	山崎委員、坂東委員、林委員、藤原委員、有澤委員、香美委員、田中委員
陪 席	徳島大学病院医療支援課：小林係長、安部専門職員、松村事務員、森内技術補佐員、宮越事務補佐員 徳島大学病院：鈴木外来統括師長、三木外来化学療法室看護師長、宮崎臨床心理士 徳島県立中央病院：住友医事企画課課長補佐 徳島赤十字病院：郷副病院長、松島医療社会事業課長、太田主事 徳島市民：鈴江氏、森田氏 県立三好病院：片岡医事課長 徳島県立海部病院：井内診療情報管理士 阿南共栄病院：吉川事務員 健康増進課：柴原課長補佐、山田係長、仙波主事、 ガンフレンド：五反田氏
<p>福森がん診療連携協議会会長(以下、福森会長という。)司会進行のもと、徳島県がん診療連携協議会が開催された。</p> <p>【議題1】 がん診療連携拠点病院の取組について</p> <p>① 各拠点病院のより</p> <p>福森会長から、徳島大学病院の平成26年度外来化学療法件数は4月～2月迄5300件と増加傾向である。徳島大学病院として年に2回、地域に出向いてセミナーを開催している。今年度は淡路島地域と徳島県西部地域で行った。病診連携の案内も行き、がん治療連携計画策定料加算算定は4月～2月迄60件で連携届出施設も増えてきている。がん登録については、当院でがん登録研修を行っている。今年度は第4回が平成26年8月30日開催で参加者42名、第5回が平成27年3月21日開催で参加者37名であった。Cancer Boardは県立3病院と市民病院と共同で行っており、参加者も毎月50名近くの医療従事者が参加している。がん患者さん対象に行っているがん患者教室を当院で行い他院からの患者の参加も多く、今年度は化学療法と口腔ケアについて実施し50名近くの参加があった。課題としては、緩和ケア提供体制の緩和ケア病棟等がないため全科病棟医長等担当となり対応する。また緩和ケア外来も行っている。がん相談支援センターも看板を作製し患者さんにわかりやすく提供しているとの活動報告と課題の報告があった。</p> <p>八木委員から、徳島県立中央病院のがん治療連携計画策定加算算定は年間99件、手術症例の4分の1以上出来ている。治療の記録ノートも月20冊程度配布できる状況である。連携医療機関も肺がん183施設、大腸がん171施設、胃がん162施設、乳がん2施設、子宮がん9施設である。Cancer Boardは徳島大学病院と開催後に、引き続いて徳島県立三好病院とカンファレンスも行っている。現在は拠点病院としての要件を満たしている。緩和ケア研修会は平成29年までに初期研修2年次以降の方対象に10</p>	

0%目標に向けて取り組む。PDCAサイクルについては難しいが、就労支援も社労士の方に来ていただき就労相談支援を積極的に行いそれに対してPDCAサイクルの導入を考えている。問題点としてはがん治療連携計画策定料加算算定の連携医及び本人への説明不足である。受診しない、未受診で難民化している方が数件あり、数件に関しては控えを基に問題点を指摘して改善できた。今後も未受診がないように努めたいとの報告があった。

木村委員から、徳島赤十字病院は細かなデータは集計していないため説明できないが、問題点として連携パスの伸び悩みがありひと工夫必要である。Cancer Boardも毎月行っているが負担が大きく、現在は一症例に対する勉強会になっているため本来のキャンサーボードとしては問題かなと思われる。がん診療連携拠点病院の指定要件が厳しくなっており、昨年から私が緩和ケア外来を担当することとなった。どこの病院とも要件を満たすことは難しくなっているのではないかと考えているとの報告があった。

山崎委員が欠席のため、代理の鈴江氏から徳島市民病院の報告があった。平成26年度の化学療法件数は6060件、がん患者指導管理料35件、がんサロン参加140件、がん登録743件、がん相談628件、合同のCancer Boardならび院内のCancer Boardも開催している。リレーフォーライフin徳島にも当院から71名が参加したとの参加があった。

福森会長から徳島県地域がん推進病院の報告をお願いしたいとの依頼があった。

漆川委員から、徳島県鳴門病院は連携機関に関しては3施設子宮がんのみで今後増やしていかなければならない。がん治療連携計画策定料加算は算定していない。平成26年度連携管理料は17件、がん性疼痛指導管理料83件、がんリハビリテーション加算は970件、外来化学療法室は847件である。治療の記録ノートは活用できていないため、今後は取り組んでいきたいとの報告があった。

住友委員から、徳島県立三好病院の報告があった。先日、地域がん診療病院に指定された。これも徳島大学病院をはじめ皆様のおかげである。また、徳島大学病院がん診療連携セミナーを当院で開催いただいたとの挨拶があった。当院は緩和ケア病棟があるため、緩和を進めていくことである。看取りも8月開院以来100件程度あった。地域に関しても倫理的なことも広げていきたいとの報告があった。

喜多委員から、阿南共栄病院は連携に関しては進行状態であり、新病院になるころには具体的に進めていきたい。治療の記録ノートに関しては活用が少ないとの報告があった。

福森会長から、徳島県立中央病院では緩和ケア研修会受講に向けて目標を立てており素晴らしい取り組みである。徳島大学病院も充分出来ていないため研修医も全員受講をしていただけるよう努力をしていく予定である。各病院の施設も研修医に受講をしていただくよう勧めていただきたい。なお、国立がん研究センターから通達でがん診療連携拠点病院は90%以上の受講が必要となっている。今後は取り組んでいきたい。また、徳島市民病院はリレーフォーライフにたくさんの医療従事者が参加していた。当院も病院長や医療従事者が多数参加した。今後も各病院の方もご参加いただければとの要望があった。

②協議会各部会報告

金山委員から、添付資料1-1に基づき下記のとおり診療連携部会の報告があった。

1. 平成26年6月5日がん診療連携協議会診療連携部会を開催した。各がん部会報告、各拠点病院の診療連携パスの使用状況等の報告と検討があった。がん治療連携計画策定料加算算定も進んでいる。治療の記録ノートも以前まで普及がなかったが普及してきている。
2. 平成23年度、平成24年度と徳島県医師会館で医療従事者対象にセミナーを開催した。今回は平成26年9月14日に徳島大学大塚講堂で一般の方を対象に市民公開講座を開催した。内容としてはがんの診療連携である各がん部会、緩和ケア部会、情報提供・相談支援部会から講演を行

った。

金山委員から、徳島大学病院も地域の医師会や拠点病院・中核病院と一緒にがん診療連携セミナーを開催した。目に見える連携を深めている。今後も続けて開催を行いたいため、ご協力をお願いしたいとの依頼があった。

寺嶋委員から、添付資料1-2に基づき下記のとおり緩和ケア部会の報告があった。

- 1.平成 27 年 1 月 20 日に緩和ケア部会を開催した。各施設からの活動状況を報告していただき情報を共有した。
- 2.緩和ケア研修会をすべてのがんに関わる医師が受講するよう厳しい条件が出てきており、開催日や対応を緩和ケア部会で検討している。また、徳島県は緩和ケア研修会を単位制としているが、新指針カリキュラムが新しくなり 2 日間受講する緩和ケア研修会を過去に 1 日のみ受講済の方等の救済として来年度中に受講していただかなければならなくなり、対象者の特定をして案内を行っている。
- 3.緩和ケア研修受講者のフォローアップ研修会を平成 27 年 2 月 21 日に開催を行った。今後も各がん診療連携拠点病院と協力しながら行っていきたい。

木村委員から、受けない人にどのように受けていただくのかとの質問があった。

寺嶋委員から、部会としては個別の勧奨は手が回らないため各病院にお願いをする。徳島大学病院もすべての対象者が受講するには定員枠が必要なため調整等行うなどしたいとの回答があった。

木村委員から、要件に病院長も受講していただくようになっているとの意見があった。

福森会長から、当院も病院長に依頼を行う予定であるが、研修医には受講を徹底していきたいとの意見があった。

寺嶋委員から、救急緊急呼び出し等で半日受講や 1 日受講の方にも救済処置を行っているため、受講をしていただきたいとの要望があった。

福森会長から、先生方も忙しいため半年先の予定も入っている方も多い。スケジュールが決まっていれば予定も立てられるため、来年度の開催日も決まってきており早めに案内をしていただきたいとの要望があった。

寺嶋委員から、徳島県医師会事務局から提示、募集もしていただく予定であるとの報告があった。

福森会長から、香美部会長が欠席のため代理で添付資料1-3に基づき下記のとおり情報提供・相談支援部会の報告があった。

- 1.平成27年2月19日に情報提供・相談支援部会を開催した。「施設別がん登録数検索システム」は都道府県がん診療連携拠点病院の指定要件として希少がんに関して適切な相談支援を行うことができる医療機関への紹介を含め相談支援を行うことが望ましいとなっており、徳島県では徳島大学病院のみが閲覧できる。他施設からの問い合わせにも対応可能なため、利用手順に沿って運用をすることとなった。
- 2.実務者会議報告としまして、がん相談員研修会を都道府県がん診療連携拠点病院である徳島大学病院で県内拠点病院等の相談員対象に年 1 回と、2 次医療圏の地域がん診療連携拠点病院が県内の相談支援員を対象に実施することとなった。
- 3.県内の療養情報の充実とのことで、他県では冊子等があるが徳島県はまだ発行やサイトの開設は行われていない。冊子での情報提供は最新情報でないためどのように情報提供を行うか今後検討して

いくこととなった。

4.がん相談員指導者研修会に県内からは3名しか修了者はおらず、ぜひ、各病院から参加をしていただき指導者となっていただきたい。

安部徳島大学病院医療支援課専門職員から、情報提供・相談支援部会の部会長については、当院の相談担当部署の長である香美地域医療連携センター長に部会長を務めていただいていたが、当院には今年度がん相談の担当部署としてがん相談支援センターが新たに設置されたため、平成27年度は金山がん相談支援センター長に部会長をお願いしたいとの提案があり、出席委員で検討の結果、提案のとおり了承された。

③徳島県生活習慣病管理指導協議会がん部会報告について

島田委員から、肝がん部会では専門性の高い治療が求められており、専門診療医療機関、標準診療医療機関の選定と選定基準作成をきちんと行っている。専門医療機関は徳島大学病院、徳島赤十字病院、徳島市民病院、徳島県立中央病院にお願いしている。肝がんの連携パスと治療の記録ノートも積極的に活用するようお願いしている。徳島県では肝炎対策協議会と徳島大学病院には肝疾患相談室があり、三位一体で促進していく。また、肝がんがん登録についてもデータの信頼性が悪く、先生方にはより確実にがん登録していただくことで、患者さんの要望に応えるよう依頼している。肝炎対策協議会には肝炎患者さんの代表の方も参加していただいております、県の肝炎・肝臓の患者さんにとって福音となるような活動をしているとの報告があった。

東島氏から、大腸がん部会では大腸がんの治療の記録ノートや連携パスについては講演会等で周知を行っており、以前より普及してきているがまだまだ使用状況は満足のいくものではないため、今後も積極的に取り組んでいく。大腸がん検診受診率向上についても改善策を、部会をあげて取り組んでいくとの報告があった。

高山委員から、胃がん部会では検診の受診率を上げるために各市町村と様々な啓蒙活動を行っている。検診センター等におけるバリウム検診の精度管理も調査を行っており、結果を基に精度を高めるような方法を検討している。4つの専門診療医療機関、5つの標準診療医療機関の選定を行いWeb上で公開している。治療の記録ノート、連携パスの運用も積極的に推奨しているとの報告があった。

木村委員から、バリウムの精度を上げるには具体的にはどのような工夫をされているのかとの質問があった。

高山委員から、国からのチェック項目があり、アンケートで調査を行い、低い地域では改善するよう依頼しているとの回答があった。

近藤委員から、肺がん部会では去年の症例を解析し専門診療医療機関5施設、標準診療医療機関11施設が問題なく継続となった。検診精度管理調査を行った。A～Fの評価があり市町村では1つがC、後はBであった。しかしCの市町村では去年はDであったため少しずつ改善されている。検診機関に関して徳島県は2つあり一方はA、一方はBであり比較読影をやっていないため比較読影が出来ないかとの話をしたとの報告があった。

丹黒委員から、乳がん部会では昨年度の検診結果の報告と解析を行った。報告書に関して若干の不具合があり全国に報告するときに精密検査報告の訂正を加えたとの報告があった。

西村氏から、子宮がん部会では徳島県の検診受診率が低く、引き上げるためにコール・リコール推奨していくこととなった。精密検査基準が徳島県は高く、平成27年度から精密検査の基準を見直し、全国基準に合わせて行うこととなった。連携パスや治療の記録ノートもまだ活用出来ていないため、活用して連携を行っていききたいとの報告があった。

④地域がん登録部会報告について

有澤委員が欠席のため近藤委員から、下記のとおり説明があった。

1. 平成27年1月16日に地域がん登録部会が開催された。平成28年1月から、がん登録が義務化することが一番のテーマとなった。平成23年度の徳島県がん登録について解析を行い、DCO割合が24.8%であった。今後良くなるであろうと思われる。
2. 県下の病院に対しさかのぼり調査を実施することとなった。死亡小票によりがんによる死亡が確認された方で、がん登録情報のない方を後付けで登録をしていただく。これを行いDCO率20%以下を目指す。

【議題2】グループ指定について(がん診療連携拠点病院の指定に関する検討会報告)

鎌村委員から、平成27年3月13日にがん診療連携拠点病院等の指定に関する検討会が開催された。徳島県は都道府県がん診療連携拠点病院である徳島大学病院、地域がん診療連携拠点病院である徳島赤十字病院、徳島市民病院、徳島県立中央病院の指定更新、および徳島県立三好病院の地域がん診療病院の新規指定について検討が行われ本県からプレゼンテーションを行い、最終的にはまだ通達は来ていないがすべて認められたものと思われる。徳島県立三好病院が地域がん診療病院に指定となり、これで徳島県での空白医療圏が解消される。今回、指定要件変更後初めての大規模な検討会となりがん診療連携拠点病院の診療実績に関する要件として厳しい審査が行われた。実態と報告が異なる病院等については指定取り消しになる可能性もあり、指定期間中でも指定が取り消しとなる場合もあるとの報告があった。別紙資料「がん診療連携拠点病院の指定要件とされる診療実績」に基づき、説明があった。①②の評価項目を概ね満たしてなければならない。表記の概ねとは9割以上と定義され、一項目でも9割未満の病院については、すべて質疑・確認が行われるなど厳しく審査されたとの報告があった。

福森会長から、今回は厳しい審査であったが新規で認められた病院が少なかったと聞いたが実態はどうであったのかとの質問があった。

鎌村委員から、会議に最後まで居らずすべては把握できていないが、地域がん診療病院については一部を除いて、グループ指定ができておれば概ね指定されたとの回答があった。

【議題3】PDCAサイクルの広報について

安部徳島大学病院医療支援課専門職員から、各がん診療連携拠点病院が取り組んだPDCAサイクルの地域に対する広報について、がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針では都道府県がん診療連携拠点病院が中心となり地域に対してわかりやすく広報を行うこととなっているが、現在は十分広報できていない状況であるため、地域へわかりやすく広報する方法として、現在作成中である徳島県がん診療連携協議会のホームページに、各がん診療拠点病院のPDCAサイクルの実施状況を掲載して広報したいとの提案があった。

なお、徳島県がん診療連携協議会のホームページは、平成27年1月に開催された緩和ケア部会でも作成すべきとの指摘があったため、現在当院のがん診療連携センターのホームページ上に作成中であり、平成27年3月末に完成予定である。4月に入ってからになるが、各がん診療拠点病院の担当者との相談のうえ、PDCAサイクルの広報を行いたいとの説明があった。

また、福森会長から、PDCAサイクルの外にも各会議の議事要旨を掲載するなど広報を行ってほしいとの提案があった。

木村委員から、議事要旨が掲載されているホームページは既にあるのではないかと指摘があり、

安部徳島大学病院医療支援課専門職員から、現在あるのは徳島県立中央病院が都道府県がん診療連携拠点病院の時に徳島県立中央病院のホームページ上に作成されたもので、当院が都道府県がん診療連携拠点病院になってからは作成されていないとの回答があった。

現在作成中の徳島県がん診療連携協議会のホームページにPDCAサイクルや議事要旨を掲載して地域に対して広報することについて、出席委員で検討の結果、提案のとおり了承された。

【議題4】がん相談支援センターの周知について

川崎氏から、勢井委員が欠席のために言付かってきた。PDCAにのってのがん相談支援センター周知に向けて、国立がん研究センターがん対策情報センターと徳島大学病院がん診療連携センターの協力をいただいて平成27年8月15日に市民公開講座を行う予定である。講演後は阿波踊りにも踊りこんで周知を行う予定にしている。各がん診療連携拠点病院の方のご参加していただきたいとの要望があった。詳しい内容についてはまだ決まっていないため、決まり次第広報を行いたいとの報告があった。

【議題5】ピアサポーター研修について

川崎氏から、ピアサポーターのフォローアップ研修の中でも話が出たが、ピアサポーター研修とがん相談員研修会を同時に行うことは可能か。がんピアサポーターとして得られること、がん相談員・MSWから得られることの相互間にかなり有意義な研修になるのではないかと患者会が考えることであるが、一緒に行いたいとの要望があった。

福森会長から、がん相談支援センター周知については勢井委員から、国立がん研究センターがん対策情報センターの若尾先生・高山先生に呼びかけていただき来県していただけることとなった。国立がん研究センターの取り組みとして行っている。第1回周知は福岡の博多どんたくである。平成27年8月15日は当院の丹黒教授のピンクリボン連の協力をいただいて踊る予定であるとの報告があった。

高山委員から、同じく8月16日はがんプロフェッショナル養成プラン主催のキャンサーミーティングにも参加いただく予定であるとの報告があった。

福森会長から、ピアサポーター研修と同時開催については、実務者会議において検討していただきたいとの要望があった。

その他

松村徳島大学病院医療支援課事務員から、食道がんパスについては治療の記録ノートは作成し運用を行っていたが、連携パスについては運用をしていなかった。今回連携パスも作成し徳島県統一で開始を行いたいため、各病院に案内を送付と連携のお願いもさせていただきたいとの要望があった。

鎌村委員から、さかのぼり調査について徳島県医師会にも協力の依頼をさせていただいた。さかのぼり調査票を4月の中旬から各医療機関に送付予定であり、徳島県医師会からも案内をしていただける。100病院に送付予定であり、協力をお願いしたいとの要望があった。

福森会長から、ご列席の委員の方に一言ずつお言葉をいただきたいとの要望があった。

本田委員から、とくしま未来健康づくり機構では県の委託を受けてがん登録を行っている。今後も協力をしていきたいとの発言があった。

森氏から、徳島県医師会では鎌村委員より依頼があったさかのぼり調査については医師会報に挟み込みと本文の記事にも掲載している。

秋田委員から、徳島県歯科医師会では徳島大学病院に続き徳島県立中央病院、徳島市民病院とがん

患者歯科医療連携合意書を締結した。今後も協力をお願いしたいとの依頼があった。

福森会長から、国立がん研究センターホームページにはがん患者歯科医療連携登録歯科医名簿が掲載され、徳島県内でも多くの歯科医師の先生方が研修され登録していただいたことがよくわかるとの意見があった。

松本氏から、徳島県介護支援専門員協会では患者さんや家族に寄り添いながら生活の支援を行ったり適切なアセスメントをする役割が大きなところであり、介護支援専門員の資格のベースが福祉系となっており医療系から来ている人が少ないため、今後も質を高めていく必要を実感したとの意見があった。

木田委員から、徳島県看護協会ではこのような動きのことを理事会等で発信をしており、それぞれの関連病院でしていることが少しずつ違うため情報共有を行っている。広報活動にも協力できることは行っていきたいとの意見があった。

福森会長から、がん診療連携拠点病院ではがん専門看護師・がんの認定看護師の確保が非常に難しい。当院でも看護部長にも理解と協力をいただいているが研修期間が長い、研修場所が県外である、経済的サポート等の理由から候補者が見つからない。徳島県全体的にも少ないため、今後は少しでも専門看護師や認定看護師を各病院から研修に参加していただき増やしていただきたいとの要望があった。

木田委員から、都道府県・地域がん診療連携拠点病院の各看護部長、文理大学、四国大学、徳島大学保健学科の先生方に集まっていただき、このような現状であることを認識していただき県内で認定の施設が必要ではないかとの話し合いを行った。しかし、教員等の問題もあり、感染・褥瘡・認知症等なども必要であるため、今後も委員会を設けて検討することとなった。徳島県は全国で専門看護師は下から4位、認定看護師は最下位であることから各施設とも数を増やさなければならないことは共通認識が持っていることから積極的に進めていきたいとの報告があった。

森氏から、地域での診療連携セミナーを行う場合は郡市の医師会と共催でとの話があったが、今後も進めていくのであれば医師会の理事会では郡市会長が集まるため説明していただいたり、郡市で診療連携セミナー担当者を任命していただき説明するなど、協力していききたいため検討いただきたいとの要望があった。

金山委員から、来年度は徳島県医師会とのセミナーを開催したいため、相談させていただきたいとの意見があった。

福森会長から、2期4年務めさせていただいた徳島県がん診療連携協議会会長を平成27年3月末で任期満了となり、御礼の挨拶があった。後任は徳島大学病院の埴淵医師であるとの報告があった。

福森会長から、閉会の言葉があり閉会となった。